

【PLATEAU 事業の成果報告（令和 6 年度）詳細】

■国土交通省都市局直轄事業

・太陽光発電のポテンシャル推計及び反射シミュレーション v3.0

当社は、「まちづくり DX の推進に向けたユースケース開発業務（太陽光発電ポテンシャル推計システムの社会実装モデルの開発）」を受託し、2024 年度 Project PLATEAU ユースケース開発業務として、「カーボンニュートラル施策推進支援システム」※を基盤に、屋根面設置型に加え、土地面に設置したパネルのシミュレーション機能の追加や UI/UX の改良を行いました。

実証を通じて、災害時の再エネ活用検討などシステムの新たな活用シーンも抽出できました。地方公共団体職員による本システムの利用シーンの拡大を目指します。詳細は国土交通省の関連リンクでご確認ください。

・関連リンク 国土交通省 PLATEAU HP (太陽光発電のポテンシャル推計及び反射シミュレーション v3.0) : <https://www.mlit.go.jp/plateau/use-case/uc24-15/>



※カーボンニュートラル施策推進支援システム：2022 年度に国土交通省のユースケース実証業務として発電ポテンシャル推計機能、反射シミュレーション機能、適地判定・集計機能をフルスクラッチで開発したシステム。

・開発許可の DX v3.0

当社は、「まちづくり DX の推進に向けたユースケース開発業務（開発許可 DX システムの社会実装モデルの開発）」を受託し、Project PLATEAU ユースケース開発業務として、2022 年～2023 年度に開発した「開発許可申請管理システム」※を基盤に、都市計画法に基づく公共施設管理者との事前協議・同意機能、開発許可申請機能を追加するとともに、2D モードによるシステム軽量化・UI/UX の改善を行いました。

詳細は国土交通省の関連リンクでご確認ください。

・関連リンク 国土交通省 PLATEAU HP（開発許可の DX v3.0）：

<https://www.mlit.go.jp/plateau/use-case/uc24-11/>



※開発許可申請管理システム：2022 年度～2023 年度に、当社はユースケース実証業務として「開発行為の適地診断・申請システム」で開発許可手続きにおける「事前相談」にフォーカスした機能を開発し、試験運用を行いました。これにより事業者は、開発行為に必要な・不要な手続きの概要を、根拠となる地図情報と合わせてシステムから取得できるようになったほか、窓口で行っていた開発行為の事前相談のオンライン完結が可能となり、市役所窓口への訪問調整の手間や各課との協議時間の削減を実現しました。

・地方公共団体向けベストプラクティスの横展開支援

当社、株式会社三菱総合研究所、一般社団法人コード・フォー・ジャパン及び株式会社福山コンサルタントがコンソーシアムを組み「まちづくり DX の推進に向けた地方公共団体の取組みに対するコーディネート業務」を受託しました。当社は、この業務の中で PLATEAU が提供する様々な オープン・ソース・ソフトウェア（OSS）のうち、特に地方公共団体からのニーズの高い分野のソリューションの横展開を促進するため、地方公共団体における OSS の導入・運用支援を行いました。

導入、運用支援を行った「カーボンニュートラル施策推進支援システム」、「開発許可 DX システム」、「災害廃棄物発生量シミュレーションシステム」について、他の地方公共団体にて活用していただけるよう、国土交通省の HP でシステムの構成や操作手順をより分かりやすく掲載していますのでご確認ください。

・関連リンク https://www.mlit.go.jp/toshi/daisei/plateau_hojo.html

・都市デジタルツインの国際展開調査

当社と一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会がコンソーシアムを組み「まちづくり DX の推進に向けた都市デジタルツインの国際展開調査」を受託し、PLATEAU の国内外の

認知度向上及び 3D 都市モデルの整備・活用・オープンデータ化に関する技術の普及を目的とし、CEATEC2024、Smart City Expo World Congress 2024 への出展支援やシンポジウムの開催を通じて情報発信の支援を行いました。詳細は以下の関連リンクをご確認ください。

・関連リンク 国土交通省 PLATEAU HP (Journal) 「CEATEC2024、Smart City Expo World Congress 2024 に出展しました」:

<https://www.mlit.go.jp/plateau/journal/j081/>

・3D 都市モデル標準製品仕様書*の改訂およびネットワークツール開発

当社と株式会社日建設がコンソーシアムを組み「建築・都市 DX の推進に向けた 3D 都市モデルの標準仕様の拡張及び BIM 連携に関する調査業務」を受託しました。本業務では専門家及び利用者との討議の場として検討 WG を発足し、主にニーズを踏まえた点群の追加やデータ整備・利用を促進するための標準製品仕様書の改訂を行いました。さらに、既存ドキュメントの利便性向上のためのオンラインマニュアル構築や自治体職員やデータ整備事業者等の参入障壁を軽減することを目的とした基礎知識・文法の解説チュートリアルを作成及び CityGML3.0 移行に向けたロードマップの策定を行いました。加えて 3D 都市モデルの活用促進を目的とした、道路モデルからのネットワークデータ自動生成ツールなどの技術検証も行いました。

※「3D 都市モデル標準製品仕様書」: 各都市において 3D 都市モデルを整備する際にその製品仕様を適切に作成でき、かつ、各都市の製品仕様に従って整備された 3D 都市モデルが国際標準に準拠したものになることを目的として提供する標準文書。

当社が作成に携わった各種ガイドブック、マニュアル、チュートリアル、3D 都市モデル標準製品仕様書及び 3D 都市モデル標準作業手順書などは以下関連リンクで確認することができます。

・関連リンク 国土交通省 PLATEAU HP (Handbooks)

<https://www.mlit.go.jp/plateaudocument/>

・関連リンク 国土交通省 PLATEAU HP (Technical Reports)

<https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/technical-reports/>

・関連リンク GitHub HP 「IFCto3D 都市モデルコンバータの改修 (FME を用いた IFC から CityGML2.0 建築物モデル (LOD4) への変換テンプレート)」

<https://github.com/Project-PLATEAU/Data-Conversion-Manual-for-3D-City-Model>

・3D 都市モデルのオープンデータ拡充に関する調査

当社と一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会、アサミ情報システム株式会社、株式会社アブストラクトエンジンがコンソーシアムを組み「建築・都市 DX の推進に向けた産学

官連携プラットフォームの構築調査業務」を受託し、オープンデータとして提供される 3D 都市モデルが保有する属性情報（主題属性）の属性情報の拡充や製品仕様書に合わせた 3D 都市モデルのバージョンアップといった有用性を高めるためのオープンデータ化支援を行いました。

■国土交通省「中小企業イノベーション創出推進事業(SBIR フェーズ 3 基金事業)」

・3D 都市モデル自動作成ツールβ版サービス

当社と株式会社リアルグローブがコンソーシアムを組み国土交通省の「中小企業イノベーション創出推進事業(SBIR フェーズ 3 基金事業)」のテーマ「都市デジタルツインの技術開発・実証」における「3D 都市モデル自動作成・自動更新システムの開発及び実証」に採択され、2028 年 3 月までの 5 か年でサービス開発を進めています。このたび、2025 年 3 月に 3D 都市モデル自動作成ツールβ版サービスを開発し、実証を開始することとなりました。詳細は、下記の当社ニュースリリース記事をご確認ください。

・関連リンク 当社ニュースリリース「3D 都市モデル自動作成ツールβ版サービスの実証開始」

https://www.ajiko.co.jp/news_detail/1610

以上